

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課

担当課長名：伊藤 高

事業名	重要物流道路 主要地方道築館登米線（仮称）栗原IC	事業区分	地方道	事業主体	宮城県
起終点	白：宮城県栗原市築館萩沢 至：宮城県栗原市築館萩沢			延長	2.2km
事業概要					
みやぎ県北高速幹線道路は、宮城県北地域における地域間交流の促進を図る地域高規格道路であり、東北縦貫自動車道と三陸沿岸道路を相互に連絡することで、平常時・災害時を問わない安定的な輸送の確保が図られる。本事業により、本路線と東北縦貫自動車道を接続することで、整備効果の増大を図る。					
H30年度事業化		都市計画決定なし		R1年度用地着手	
R2年度工事着手					
全体事業費	約98億円	事業進捗率	約39%	供用済延長	- km
計画交通量	2,400～9,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (0.8) (残事業) 1.1 (1.1)	総費用 (残事業)/(事業全体) 58/1,078 億円 事業費：52/1,041 億円 維持管理費：6.3/37 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 66/1,369 億円 走行時間短縮便益：55/1,245 億円 走行経費減少便益：9.2/118 億円 交通事故減少便益：1.8/5.5 億円	基準年 令和5年	
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=1.1～1.4 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.0～1.3 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.3～1.3 (事業費±10%) 事業費：B/C=1.0～1.3 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.1～1.3 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.1～1.1 (事業期間±20%)					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> 宮城県北地域における東西連携の強化、産業振興、文化交流、地域開発の促進等が期待 東北縦貫自動車道と三陸沿岸道路を結び、復興や平常時、災害時の効率的な人流、物流を支援 					
関係する地方公共団体等の意見					
<ul style="list-style-type: none"> みやぎ県北高速幹線道路整備促進期成同盟会から早期完成を求められている。 					
事業評価監視委員会の意見					
<ul style="list-style-type: none"> 事業継続を妥当と認める。 					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
<ul style="list-style-type: none"> 令和元年6月9日にみやぎ県北高速幹線道路（Ⅳ期・築館工区）が供用開始 令和3年12月17日にみやぎ県北高速幹線道路（Ⅲ期・佐沼工区）が供用開始 					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
<ul style="list-style-type: none"> 用地取得率100%、事業進捗率約39% 					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
<ul style="list-style-type: none"> 早期完成を目指し、道路改良工事を推進していく。 					
施設の構造や工法の変更等					
<ul style="list-style-type: none"> 新技術の採用や再生資源の積極的な活用等により、総コストの縮減に努めていく。 					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。 				

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。